

ボツワナ共和国月報(2020年1月)

主な出来事

【内政】

- 選挙運動資金に関する法改正
- 省の再編に伴う内閣改造の可能性
- UDCの総選挙に係る不正の申立て上告棄却

【外政】

- 中国・ボツワナ外交樹立45周年式典開催
- マシシ大統領, 世界経済フォーラムに参加
- マシシ大統領, 腐敗認識指数に関する記者会見参加

【経済】

- ボツワナ統一歳入庁, 中古車販売業者の取締まりを実施
- LCD社鉱山購買の動き

※当地メディア記事等を任意に引用した内容です。

【内政】

○ 選挙運動資金に関する法改正

2019年の総選挙に当選した国会議員は選挙法により選挙運動に使用した金額を、2020年1月26日までに申告しなければいけなかったが、57名の国会議員は政党の違いに関わらず、全員が選挙資金の上限を50,000プラ（当館注：約50万円）とする法律に違反しており、全員が選挙資金の申告ができないという状況にあった。今回の選挙法改正は、選挙資金の上限を50,000プラから2,000,000プラ（当館注：約2,000万円）に変更にするもので、さらに、国会議員はこの変更の前に選挙法違反をしていたので、この法改正を事後的に2019年8月に適用することを決定し、彼らの犯罪を無実とした。（12日：サンデー・スタンダード紙）

○ 省の再編に伴う内閣改造の可能性

4月にマシシ大統領は省の再編に伴う内閣改造を計画しており、その一環で、雇用・労働生産・技能開発省と国家・移民・ジェンダー省の統合を検討している。一方で、投資・通商産業省を投資・通商省と中小企業省の2つに分割すること、また、運輸・通信省を運輸省と通信省に分割し、後者を大統領府の下に置くことを計画している。雇用・労働生産・技能開発省と国家・移民・ジェンダー省が統合した場合には、モケティ国家・移民・ジェンダー大臣が続投し、バロピ雇用・労働生産・技能開発大臣（当館注：与党ボツワナ民主党(BDP)の幹事長も務めている）はより重役である通信大臣に任命されると見られている。また、中小企業大臣にはカニエ・ノース選挙区出身のタペロ・レツォロ議員が任命されるとみられている。（25日：ウィークエンド・ポスト紙）

○ UDCの総選挙に係る不正の申立て上告棄却

29日、野党連合民主改革のためのアンブレラ(UDC)が選挙の不正に関する申し立てを控訴裁判所(当館注:当国の最高裁判所にあたる機関)に上告していた件で、控訴裁判所がUDCの14件の申し立てを棄却した。控訴裁判所の棄却理由は、控訴裁判所には選挙結果の申し立てにおいて国民議会議員候補者に関するものは受け付ける権限がないためとのこと。

(30日:デイリー・ニュース紙)

【外交】

○ マシシ大統領, ニュシ大統領の就任式に参加

15日、マシシ大統領はニュシ・モザンビーク大統領の就任式に参加した。

(17日:デイリー・ニュース紙)

○ 中国・ボツワナ外交樹立45周年式典開催

21日、中国・ボツワナ外交樹立45周年及び春節を祝う式典が、ハボロネ・インターナショナル・コンベンション・センター(GICC)にて開催され、中国人、ボツワナ人、両国高官、外交団のメンバーらが出席し、ダウ外務国際協力大臣がスピーチを行った。(23日:デイリー・ニュース紙)

○ マシシ大統領, 世界経済フォーラムにおける腐敗認識指数に関する記者会見参加

23日、スイスで開催中の世界経済フォーラム(ダボス会議)に出席中のマシシ大統領が右フォーラム内で開催された腐敗認識指数に関する記者会見にパネリストの一人として参加した。右記者会見は、23日に2019年の腐敗認識指数が公表された直後に実施されたもので、マシシ大統領は、デリア・フェレイラ・ルビオ(Delia Ferreira-Rubio)トランスペアレンシー・インターナショナル代表及び他2名とともにパネリストを務めた。ボツワナは、2019年の腐敗認識指数において、サブサハラアフリカで第2位(の透明性)、世界全体で34位という結果であった。(27日:デイリー・ニュース紙)

○ マシシ大統領, 世界経済フォーラム参加

マシシ大統領は20日~24日かけてスイスのダボスで開催された第50回世界経済フォーラムに、セラメ投資・通商産業大臣らとともに参加した。会期中、マシシ大統領は同フォーラムの創始者であるクラウス・シュワブ教授と会談を行った。

(17日~27日:デイリー・ニュース紙)

【経済】

○ ボツワナの主要経済指標

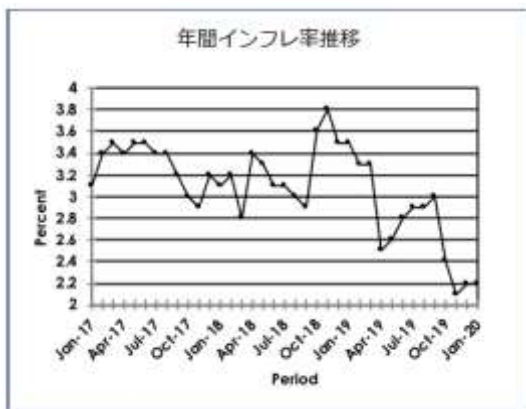
1) 経済成長率(出典:ボツワナ統計局)

2019年第3四半期の GDP は495億6100万プラとなり, 第2四半期(492億1160万プラ)と比べて0.7%増となった。(2018年GDP合計は1898億6850万プラ)



2) 年間インフレ率(出典:ボツワナ統計局)

2020年1月は2.2%(2019年12月は2.2%)。



3) 為替レート(出典:First National Bank of Botswana)

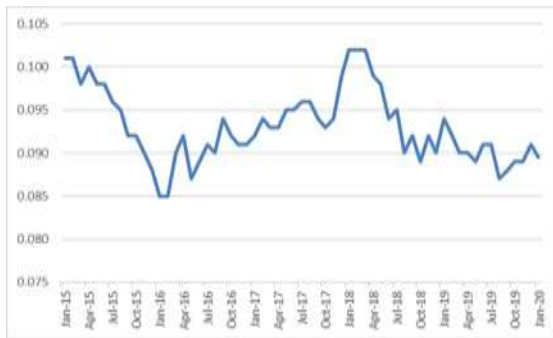
2020年1月31日

1 プラ=0.089米ドル
1 プラ=1.31南ア・ランド
1 プラ=9.84円

2019年12月31日

1 プラ=0.091米ドル
1 プラ=1.283南ア・ランド
1 プラ=10.04円

[米ドル] 為替推移(1プラ=〇米ドル)



[円] 為替推移(1プラ=〇円)



○ **ダイヤモンド産業**

1)デビアス社の2019年第4四半期のダイヤモンド原石生産高は15%下落し、7.8百万カラットとなった。ボツワナの生産高が昨年同期比と比較し、7%下落し、5.9百万カラットであった(ボツワナは同社の77%を生産している)。

○ **ボツワナ統一歳入庁、中古車販売業者の取締まりを実施**

ボツワナ統一歳入庁が、中古車販売業者の捜査を行い複数の中古車業者の営業を停止し、中古車を押収の上、営業所を閉鎖した。ボツワナの中古車業者は、南アフリカ・ダーバン港の業者と協力し、中古車価格を実際よりも少なく記載した虚偽のインボイスを発行するなどして、中古車輸入にかかる税金を低く抑えていた。ボツワナ統一歳入庁は、今後同様の捜査を全国的に展開するとしている。(12日:サンデー・スタンダード紙, 13日:モニター紙)

○ **貿易赤字, 34億プラを記録**

ボツワナの10月の貿易赤字は、34億2千万プラを記録した。ボツワナ統計局によると、2018年の年間貿易収支は27億プラの黒字であったが、2019年は、10月までの累積貿易収支が110億8千万プラの赤字となっている。2019年の赤字は、ダイヤモンド研磨業者からの需要減により、ダイヤモンドの輸出が弱まったことに影響を受けているとされる。(10日:メヒ紙, 11日:ウィークエンド・ポスト紙)

○ **2019年第3四半期名目GDP, 第2四半期比0.7%増, 経済成長率3.1%**

ボツワナ統計局によると、名目GDPは、第2四半期の約492億プラから第3四半期の約496億プラへと、約0.7%増加した。第3四半期の経済成長率は3.1%であり、この増加は、小売業(6.7%)、ホテル・レストラン産業(6.1%)及び車輛ディーラー業(4.2%)における実質付加価値の増加による(カッコ内は各産業の経済成長率)。(10日:ボツワナ・ガーディアン紙, 12日:サンデー・スタンダード紙)

○ **年間インフレ率2.2%**

ボツワナ国の2019年12月の年間インフレ率は、先月比で0.1%上昇し、2.2%であった。(17日:ボツワナ・ガーディアン紙)

○ **失業率20.7%に**

ボツワナ統計局によると、ボツワナにおける失業率は、特に若者を中心に大きく増加し続けており、2015/2016年には17.6%であった15歳以上の失業率が、2019/2020年に3.1%増加し、20.7%に達した。積極的に求職中の者(失業者)は194,990人である一方、職を得ることをあきらめている者は68,654人に上る。(24日:ボツワナ・ガーディアン紙, 25日:ウィークエンド・ポスト紙)

○ **LCD社鉱山購買の動き**

2016年に閉鎖されたことで、5,000人が職を失ったとされるBCL社鉱山に、4企業が関心を示し、同意書(「Letter of Consent」)に署名をしている。トレバー・グロームBCL社生産財産管理人によると、そのうち2社はすでに関連手続きを進めており、他の2社も同様の手続きをまもなく開始する予定。(30日:デイリー・ニュース紙)